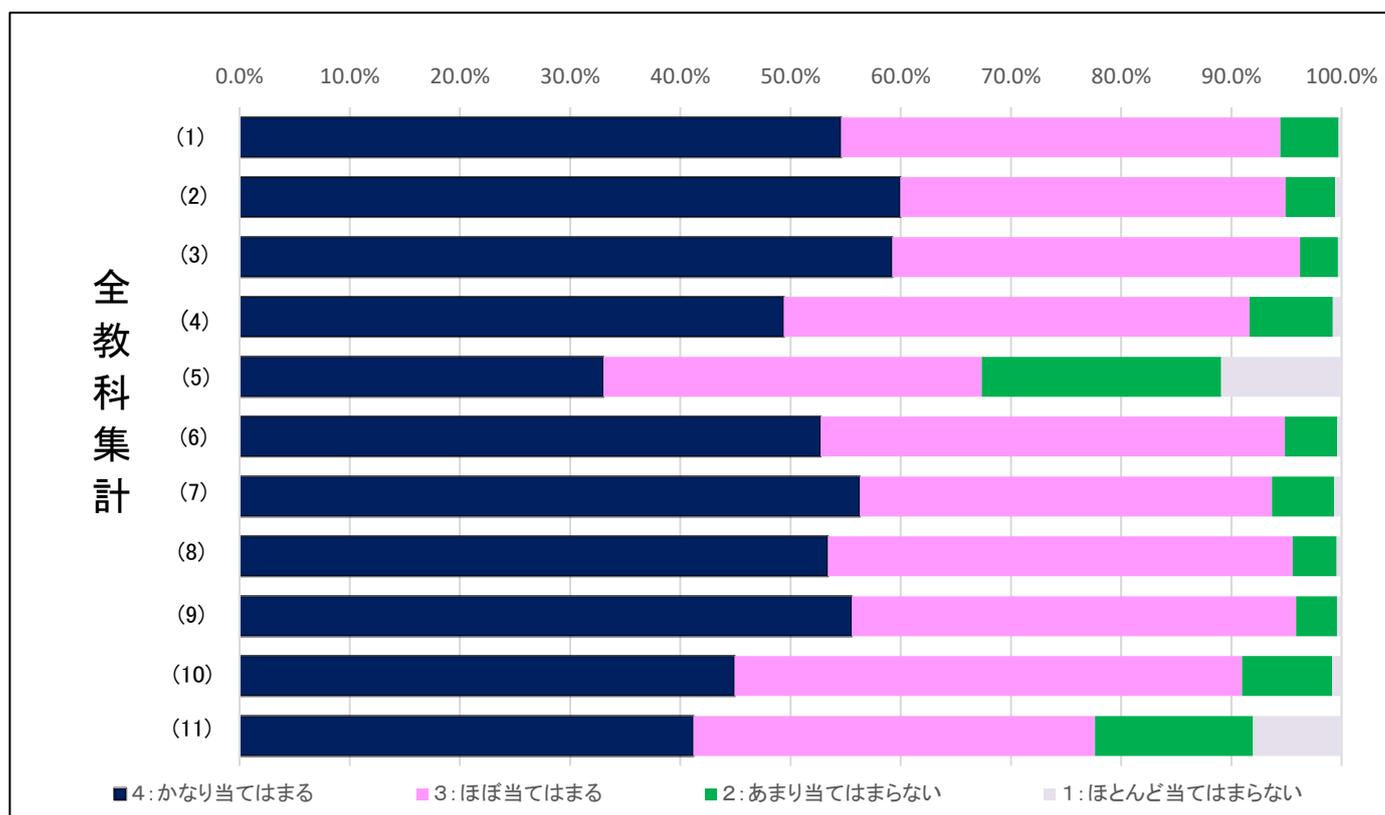
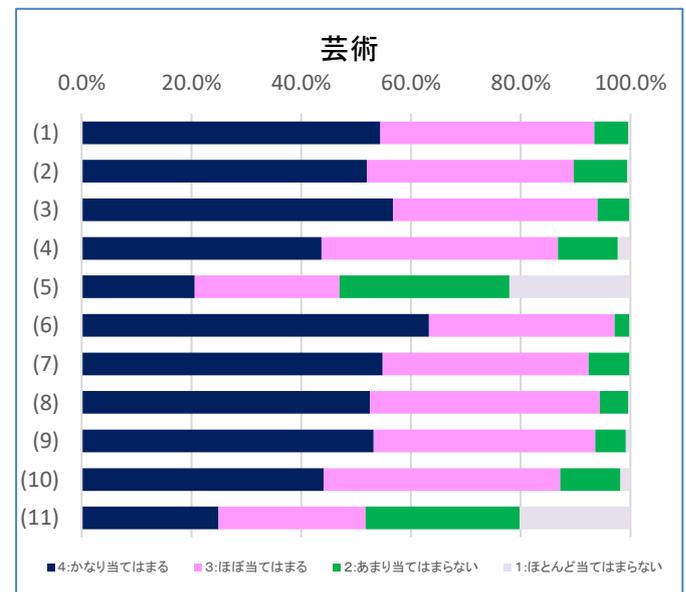
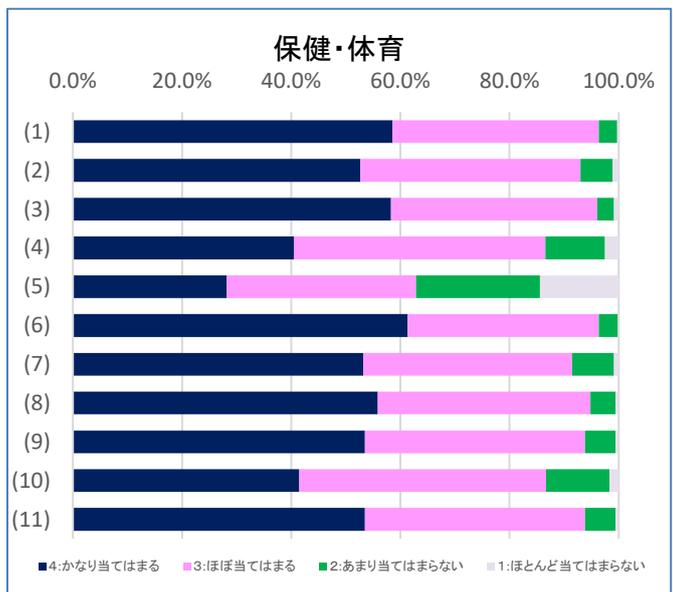
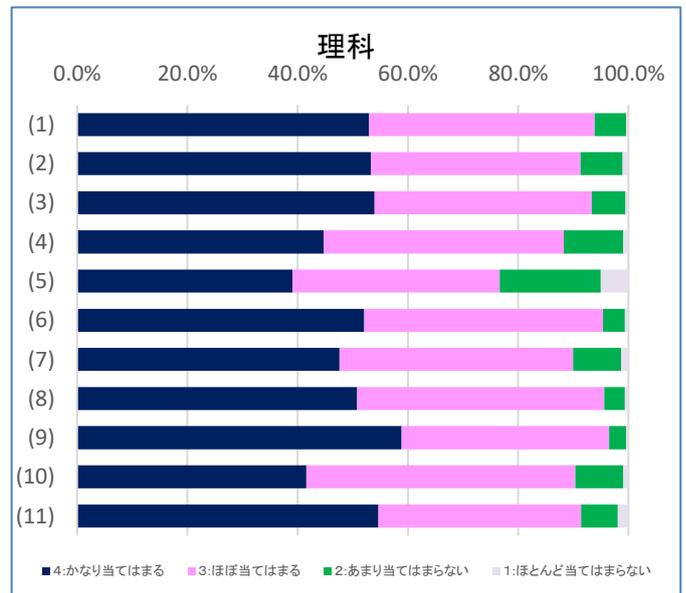
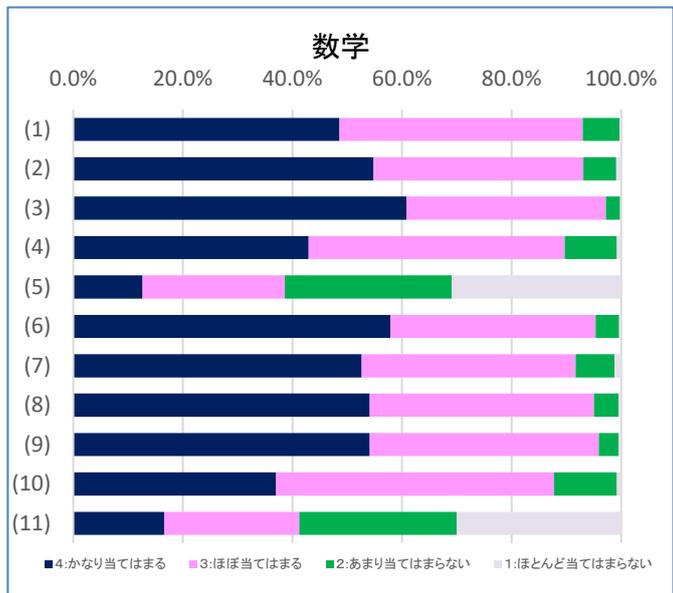
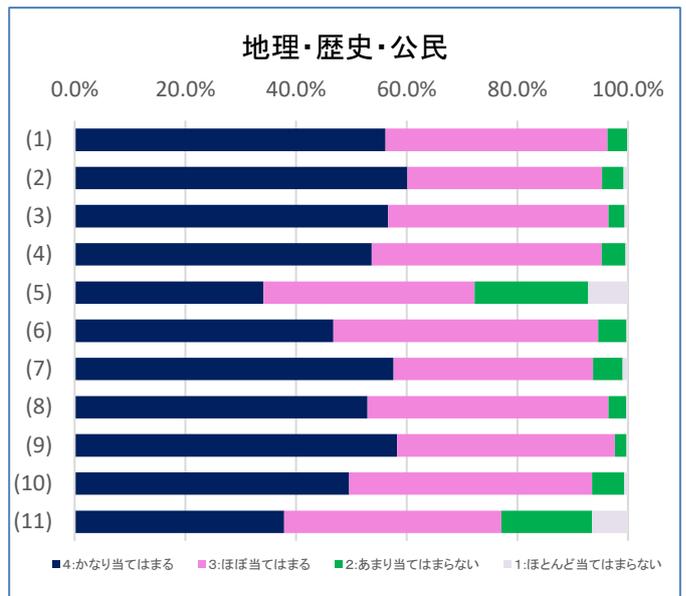
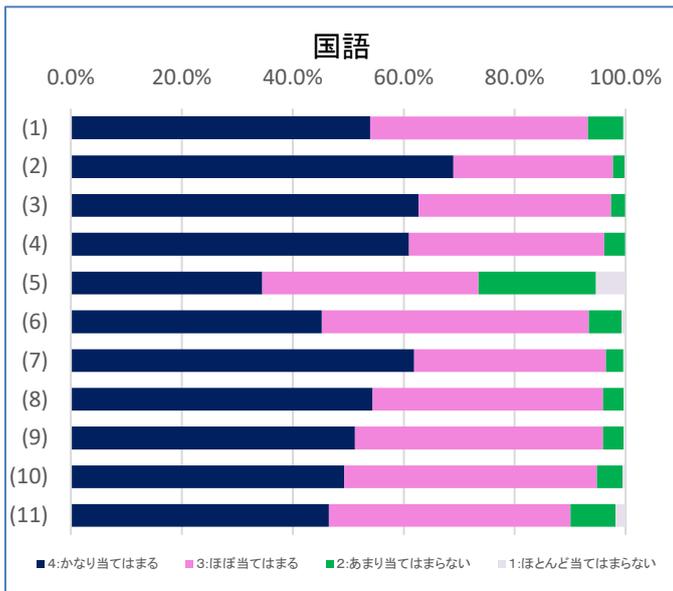


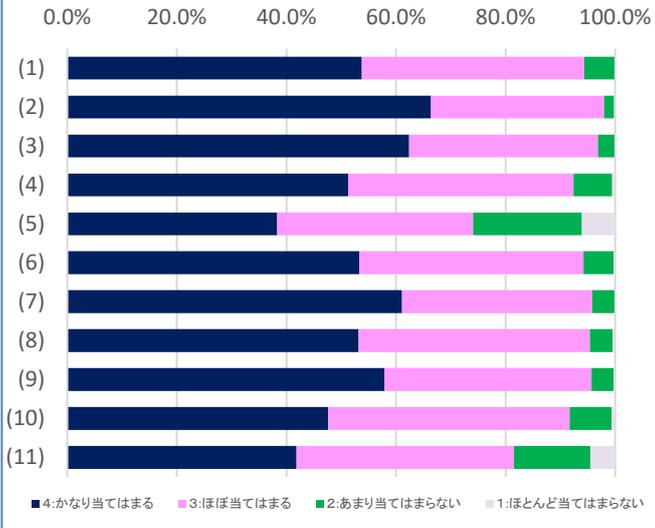
令和7年度 第1回「生徒による授業評価」集計結果一覧 (令和7年6月23日～7月9日実施)

大項目	小項目	
授業の在り方について	(1)	毎時間の授業や単元(内容のまとめ)のはじめに学習のねらいを示したり、毎時間の授業や単元の学習のあとに学習したことを振り返ったりする機会がある。
	(2)	単元(内容のまとめ)の学習の中で、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会がある。
	(3)	単元(内容のまとめ)の学習の中で、課題について自分の考えをまとめたり、解決方法について考える場面がある。
	(4)	新たな知識を獲得し、批判的・論理的に思考する学習活動がある。 ※「批判的・論理的に思考」とは、「物事を無批判で受け入れるのではなく、多様な角度から検討し、客観的に理解すること。」です。
	(5)	ICT機器等を利活用した、協働的な活動や発表の場面がある。
学習の状況について	(6)	授業の中で身に付いたことや、できるようになったことを実感することができた。
	(7)	他者の考えを知ることにより、新たな考え方を知るなど、自らの考えをができた。
	(8)	授業で得た知識をもとに、自分の考えをまとめたり、課題の解決方法を考えたりすることができた。
	(9)	授業で学んだことをそれまでに学んだことと関連付けて理解することができた。
	(10)	新たな知識を獲得し、批判的・論理的に思考することができた。
	(11)	ICT機器等を利活用した、協働的な活動や発表に取り組むことができた。
評価について	各授業内にて記名式で行い、「4:かなり当てはまる、3:ほぼ当てはまる、2:あまり当てはまらない、1:ほとんど当てはまらない」の4段階で評価する。	

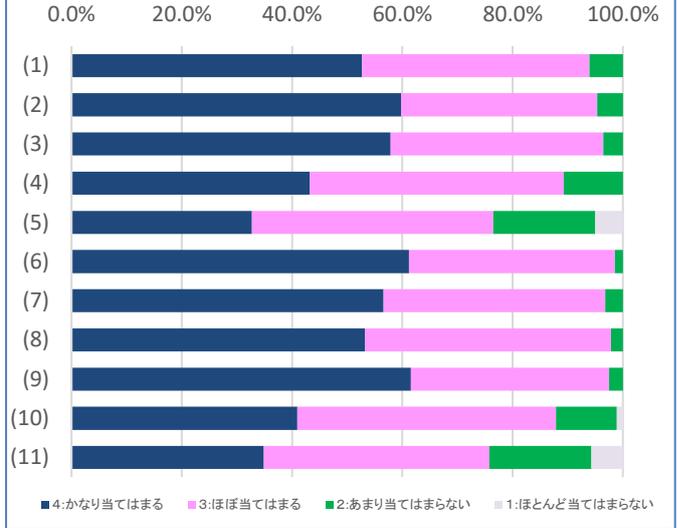




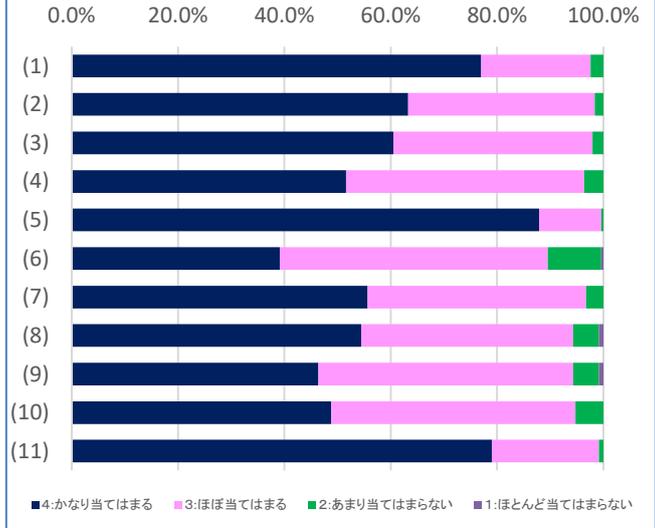
外国語・国際



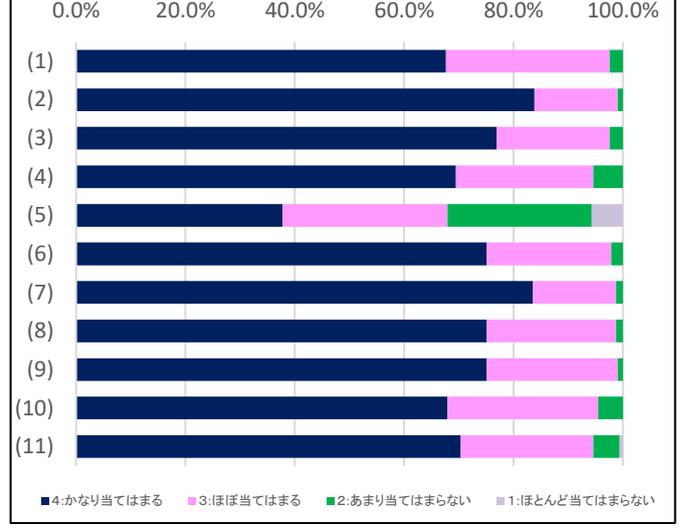
家庭・看護



情報



舞台芸術



令和7年度 第1回「生徒による授業評価」教科検討事項

教科		授業評価分析結果・課題点	授業改善に向けての具体的取組み
国語		<ul style="list-style-type: none"> ●全科目において、「はじめにねらいを示す」「考えを広げ深める機会がある」の項目が高い傾向にある。 ●少数教科目の満足度が全体的に高い。 ●全科目において、できるようになったことを実感することができた、の項目への評価が低い。おおむね前期よりも低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ●教員の異動に影響されない取り組みを継続する。 ●大人数の必修科目においては、小グループでの活動を取り入れるなど、似たような環境での授業を考える。 ●活動の場面を増やし、実感の機会を設けたい。
地理歴史公民		<ul style="list-style-type: none"> ●指導すべき内容が多く、多岐に渡る教科の特性がある中で、インプット中心で、自ら考える機会や協働的な学びを行う時間をとれていない科目がある。 ●単元のまとまりのはじめに学習のねらいを示すことや振り返りを行うことに困難がある科目もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ●全体像をつかむことや、考えさせたいことから、問いや授業の説明内容を精査し、自ら考える機会や協働的な学びを行う機会を確保する。 ●教科書に書かれている問いを活用する。最後のまとめでも確認する。また、前回の問いの答えを読み合わせて、冒頭で復習させるといった方法もある。
数学		<ul style="list-style-type: none"> ●質問(5),(11)について、4または3の回答の割合が顕著に低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ICT機器等を活用した協働的な活動や発表の場面について、授業見学等を行いながら教科内で継続的に議論していく。
理科		<ul style="list-style-type: none"> ●質問4、10の評価が低い(批判的・論理的思考力の育成不足) ●質問5、11の評価が低い(ICTを活用した協働・発表機会の不足) ●質問1、6の評価が低い(学習成果の実感や振り返りの形骸化) 	<ul style="list-style-type: none"> ●①「問い」から始める単元導入:各単元の冒頭で、教科書の問いや日常の素朴な疑問を提示し、生徒に「なぜだろう?」「どうなっているのだろうか?」と考えさせる時間を設ける。 ●②PDCA活動:実験や観察結果から「仮説を立てる→検証方法を考える→データを整理・分析する→考察する」という一連のプロセスを、小グループで実践させる。教員はヒントや質問で思考を促す。 ●③データ収集・分析アプリの活用:実験において、アプリを用いてデータを収集したり、データをグラフ化・分析したりする活動を取り入れる。 ●④オンラインツールでの探求活動:グループでの探求活動やレポート作成において、ドキュメントやスプレッドシートのような共同編集ツールを使用させ、リアルタイムでの意見交換や資料作成を促す。 ●⑤プレゼンテーションでの発表:実験結果や探求活動の成果を、スライドやポスターで作成させ、クラス内での共有の場を定期的に設ける。 ●⑥目標の明確な提示:授業開始時に、具体的な今日の学びのゴールを提示し、常に見えるようにしておく。 ●⑦「振り返りシート」の工夫:授業の最後に、今日のゴールに対して「できたこと」「分からなかったこと」「さらに知りたいこと」を記述させる5分程度の「ミニ振り返りシート」を導入。記述後、隣の生徒と共有する時間も設ける。 ●⑧ポートフォリオの作成:各単元で作成した実験レポートや探求活動のまとめをClassroomに蓄積させ、学期末などに自身の学習の軌跡や成長を振り返る機会を設ける。
体育		<ul style="list-style-type: none"> ●両科目ともに、半数以上が回答しており、一定の意見収集はできているが、約3割から4割は未回答であるため、回答していない生徒の意見も考慮する必要がある。 ●回答率をさらに向上させるための工夫が必要である。急激に気温が上がっており、休憩時間も増やさなければならぬ中、授業時間内に「授業の振り返り」と学習のねらいの提示や振り返りの機会が高く評価されている。これは学習の方向性を明確にし、定着を促す上で重要である。 ●他者の考えを知り、自身の考えを広げ深める機会が高く評価されている。 ●授業を通じて身に付いたことや、できるようになったことを実感できている学生が多いと評価できる。 ●ICT機器等を活用した協働的な活動や発表の機会が、生徒のニーズや期待に対してまだ不十分である可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ●授業評価アンケートへの回答の時間を授業内で設けられるように時間を配分する ●今後も継続して各講座で学習のねらいの提示や振り返りの機会を設けていけるように、お互いの授業見学をしたり、情報交換をしながら、教科全体で授業改善をしていく ●グループワークや協働的な問題解決活動の質を高め、多様な表現機会を設けることで、他者との深い学びをさらに促進していく。 ●明確な目標設定と進捗の可視化、個別フィードバックの充実、実践への応用機会の提供により、生徒の学習効果の実感を継続的に高めていく。 ●各単元において、ICT機器(タブレット、プロジェクター、学習支援システム等)を活用した具体的な協働活動や発表の場を計画的に導入する。例えば、タブレットで自身の運動フォームを撮影し、グループで分析・改善点を議論する活動や、デジタルツールを用いたルール説明や戦術発表などが考えられる。
保健		<ul style="list-style-type: none"> ●学習のねらいの提示や振り返りの機会が非常に高く評価されている。これは学習の方向性を明確にし、定着を促す上で極めて重要である。 ●他者の考えから学び、自身の考えを深める経験はできていると判断できる。 ●ICT機器等を活用した協働的な活動や発表の機会が、まだ十分に提供されていない、あるいはその効果を実感できていない生徒が存在する可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ●単元間の繋がりを意識した導入と振り返り、多角的視点を取り入れた振り返り、ポートフォリオ学習や多様な形式での振り返りを通じて、学習の定着と自己学習能力の向上を図っていく。 ●多様な視点からの情報収集と共有を促進し、深い議論を促す、ロールプレイングやケーススタディの活用、思考の深化と実践的応用能力を育成していく。 ●健康課題に関するグループワークで、オンラインツール(共有ドキュメント、プレゼンテーションツールなど)を活用した情報収集・分析・発表を取り入れる。
芸術	音楽	<ul style="list-style-type: none"> ●(1)～(4)、(6)～(10)の質問については9割前後の生徒からポジティブな回答があり、満足度は概ね高いと考えられる。 ●(5)、(11)については、ICTの使用状況が科目、題材により異なるため、50%近くネガティブな回答となったと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●発表の場を通して、授業や指導法についての意見交換を行う。 ●ICTの使用が教育的に有効だと考えられる科目に関しては、積極的に活用できるように授業内容を工夫する。
	美術工芸書道	<ul style="list-style-type: none"> ●昨年度に比べて、生徒が批判意識をもって題材に取り組んでいる様子である。 ●ICT活用の部分で「あてはまらない」が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ●生徒同士での教えあいや話し合いができる機会を引き続き設けていく。 ●実際に手を動かす時間を大切にしつつ、導入や講評など場面に応じてうまく取り入れていく。
外国語国際		<ul style="list-style-type: none"> ●「新たな知識を獲得し、批判的・論理的に思考する学習活動がある。」について、学年が進むにつれて4や3が増えている。 ●「新たな知識を獲得し、批判的・論理的に思考する学習活動がある。」の質問について2や1が多い科目は、「新たな知識を獲得し、批判的・論理的に思考することができた。」でも2や1が多かった。→生徒が「新たな知識を獲得し、批判的・論理的に思考できている」と感じるのは「授業で得た知識を用いて、トピックに対して論理的に考えたり、多面から複眼的・遠近法的に検討する経験ができていくとき」ではないかと推察される。 ●※第二外国語などは初級から始めるため、批判的・論理的に考えるレベルに到達するのは難しい科目もあるが… ●ICTに関する設問は、予想通り数値が低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ●授業で得た新たな知識・技能を元に自ら探究し自分の考えを深め、表現する時間を設ける。 ●4技能を実践的に活用するために、知識・技能を定着させる時間を設ける。 ●後期の授業展開に向け、生徒の実力を育む方向で、生徒がICT機器や生成AIを適切に活用する授業の提案 ●※Can-Doリストが達成できているかを確認できる手法が確立できているか。
家庭看護		<ul style="list-style-type: none"> ●実習教科であり、個々で作業を進めるため、(2)(7)の他者の考えを知る機会はないと考えられる。 ●(6)(9)授業でやったことを実感できているという回答、(4)(5)主体的に取り組む事ができているという回答が多い。 ●看護専門学校の校長先生が、本校に合った授業を非常勤講師として担当して下さっており、生徒の満足度も概ね高い。(1)のねらい提示や振り返りが出来ているという回答が多い。 ●(7)他者の考えを知る機会が少ないという回答が比較的多かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ●作品を見せ合ったり、アイデアを共有しあう機会を持つ事もお互いの刺激になり得る。 ●自分の力でフランス刺繍や刺し子の図案や作品を作る事、新しい縫い方を習得する喜びを感じられているので、新しい縫い方にも今後も挑戦させ、続けてスライドだけでなく、カラーのレジュームも配付しており、理解がしやすいよう続けていきたい。 ●実習をした感想、動画に関する感想などを発表したり共有したりする機会を持つ。
情報		<ul style="list-style-type: none"> ●「授業の中で身に付いたことや、できるようになったことを実感することができた」の質問では「かなり当てはまる」と回答した人がR6年度も含め少なかった。 ●「授業で学んだことをそれまでに学んだことと関連付けて理解することができた。」の質問で「かなり当てはまる」と回答した人がR6年度と比べて少なかった。 ●R6年度と同じ質問項目のほとんどで「かなり当てはまる」と回答した人が多くなっていた。 ●R6年度と比べて授業の最後に自身で振り返る時間と振り返った内容をグループで共有する時間を設けたため、質問(1)(8)で「かなり当てはまる」と回答した人が多くなったと推測できる。 ●R6年度と比べてグループワークを多く設けたため、質問(2)(3)(7)で「かなり当てはまる」と回答した人が多くなったと推測できる。 ●情報科にも関わらず、「ICT機器等を活用した、協働的な活動や発表の場面がある。」と「ICT機器等を活用した、協働的な活動や発表に取り組むことができた。」の質問で、「かなり当てはまる」と回答した人が100%近くにならなかったのは、協働的な活動や発表の場面が少なかったからだと考えられる。 ●自由記述ではグループワークや毎回の授業での振り返りや前回の授業の復習、タイピングや授業スライドの見やすさ、情報に関するニュースの紹介などが良かったという意見があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ●生徒ができるようになったと実感がわくような授業を展開する。例えば、AIの使い方や仕組みについての授業を行う。そうすることで、AIを日常生活で取り入れ、実感がわくことが期待できる。 ●授業の内容をより精査し講義型の所を減らし、その分グループワークや発表の機会を増やし、生徒の学習効率を上げていく。
舞台芸術		<ul style="list-style-type: none"> ●単元(内容のまとまり)について、意識できる生徒が増えている。 ●ICTの活用に関する項目について、否定的な回答が多い。 ●「新たな知識を獲得」に関する項目について、実技科目で肯定的回答が少し低い傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> ●教科書・副教材がないため、他教科と比べて生徒は単元を意識しにくいのが課題であった。講師ミーティングなどを充実させ、単元ごとのねらいや振り返りを明確に提示するようにした成果が出てきている。継続したい。 ●すべての科目においてICT活用が効果的であるとは限らないため、科目や単元の特性を鑑みて、積極的に活用できる場面では活用していく。 ●実技科目においては、「知識」の意味を、「情報」ではなく、実演を通じて得た「概念」や「感覚」の習得を含むと捉える必要がある。実技においては、情報を渡すことによって、生徒本人の気づきを減らしてしまい、教育効果が薄れることもある。科目の特性に応じて、慎重に改善していく。